

町医者だより

平成29年07月08月合併号

喘息患者の息苦しさ

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器内科

以前喘息の患者さんが吸入ステロイド治療を始めたら息苦しさを自覚するようになって却って悪くなったのではないかといわれた事がありました。町医者だより平成21年9月号の「息苦しくない喘息？」にも触れていますが、喘息の患者さんでは重症患者のみならず軽症の患者さんでも「息苦しさ」の認知低下があるということです。今回は喘息患者さんの息苦しさについてです。

喘息患者は息苦しさを感じにくい

喘息ないし喘息関連疾患での報告は既に幾つもなされています。どれも、メサコリン気道過敏性試験と言う検査を用いています。メサコリンは、気管収縮物質です。喘息の病態の一つである気道過敏の有無を見る検査です。希釈されたメサコリンを吸入して、日本では気道抵抗の増加(アストグラム)、世界的には1秒量の低下(標準法)をメサコリン濃度を上げながらみていくのですが、同時に息苦しさを評価も各濃度で行います。息苦しさを評価は当院でも行っている視覚的アナログスケールと和訳されているVASないしはボルグスケールで行います。VASは10cmの直線が引いてあって、その片側の端がゼロで(全くない)、反対側の端が100(非常に強い)です。自分が感じている息苦しさがどこか印を付けて貰いゼロからの長さを測って数値化するものです。ボルグスケールは、0点(まったくない)から1点ずつ増えて10点(非常に強い)までの記載があって何点になるか丸をつけてもらいます。VASもボルグスケールも、痛みの評価に良く使用されています。患者さんの息苦しさを訴えるは、風邪などを契機に徐々に(3日から1週間で)出てきます。メサコリンのような短時間で誘発された症状が、患者さんの症状を正確に反映しているか分かりません。喘息患者でメサコリン気道過敏性試験が陽性の方は気道過敏がない方よりも息苦しさを感じにくく、気道過敏性の程度がひどいほどその傾向が大きくなるとの報告があります(Respir Med, 2001)。また別の論文でも1秒量が低い喘息患者と気道過敏が大きい喘息患者は息苦しさを認識が弱いとの報告もあります(Thorax, 1999)。

吸入ステロイドで息苦しくなる?

吸入ステロイドを2ヶ月使用するとメサコリン気道過敏試験でのボルグスケールで見た息苦しさ(正確には各メサコリン濃度での1秒量とボルグスケール値から求められる直線の傾き)が大きくなって息苦しさが却って悪化することが報告されています。これは息苦しさを感受性が吸入ステロイドで戻るためです(Am J Respir Crit Care Med, 2002)。別の論文でも、1ヶ月の吸入ステロイド治療でメサコリンともう一つ別の気道狭窄物質ブラジキニン吸入試験での息苦しさがひどくなることが報告されています(J Clin Invest, 1995)。初めに述べたように、吸入ステロイド治療を始めると患者さんは却って息苦しさを感ずる可能性があることがわかります。しかしながら、それは、変調をきたしていた感覚が戻って来たと言う事です。当院ではVASによるスコアリングと呼吸機能の両方で状態評価をしています。どちら一方だけの評価は片手落ちだからです。